

2025 / 春 / No.122
来ぶらり

大学図書館の本を 選んでみよう!



朋(とも)達を作ろう!

図書館長 山田澄生

新生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

朋友の朋という字には、同門、つまり師を同じくする友人という意味があります。ここでは「師を同じく」を少し拡大解釈して「志を同じく」としましょう。学習院大生として、みなさんは「学ぶ」というところざしを共有していることと想像します。さて、教室の隣に座っている朋の他にも実は志を同じくする人が、本を介してたくさんいます。

数学者である私の専門は幾何学ですが、その礎をなすユークリッド幾何学はもう少しのところで完全に忘れ去られていました。ユークリッドが活躍したギリシャ文明は二千年ほど前に、キリスト教を正統とするビザンチン文明に取って代わられました。その混乱に巻き込まれて、ユークリッドの幾何学をはじめとするほとんどすべてのギリシャ哲学の原書は現存していません。それらの本は、アラブの商人によってアレキサンドリアの市において二束三文で買われ、西洋から遠く離れた現在のイランやイラクにおいて一千年にわたって学問として開花し、ルネサンス時代を前にしてようやくヨーロッパに戻りました。つまり、二千年前のギリシャの哲学者も、一千年前のアラブの数学者も、皆私の朋です。



大学は、時空を超えたSNS (Social Network Service) です。みなさんが目の前で過ごす4年間に、一人でも多くの朋達との出会いがあることを切に願います。

大学図書館の本を 選んでみよう!

「選書ツアー」体験記

大学図書館の資料は誰が選んでいると思いますか? 普段は図書館職員が中心になって選んでいます。学生の皆さんが選ぶ機会もあります! 大学図書館に置いてほしい本を都内にある大型書店へ行って自分で選ぶイベント「選書ツアー」を年2回開催しています。今回の特集では、令和6年度の「選書ツアー」の様子をご紹介します。

Step 1 応募 (ツアーの1ヶ月前~1週間前)

G-Port、大学図書館Webサイト、Instagram、ポスターなどで参加者を募集します。令和6年度は6月と11月に開催しました。

Step 2 書店での選書 (ツアー当日)

令和6年度の会場は2回とも紀伊國屋書店新宿本店でした。最初に図書館職員より選ぶ本の基準、金額の上限などを説明し、その後、参加者は書店の本を手に取りながら選びます。品揃えが豊富な書店での選書は自分用の本を選びたくなる誘惑も多く、あっという間に時間が過ぎてしまいます!



Step 3 ブックトーク (ツアー当日)

参加者が選んだ本の中から1~2冊をお互いに紹介します。どういったテーマの本を選んだのか? どうしてその本を選んだのか? その本のおススメはどこか? などを話します。参加者それぞれの選書ポイントを聞くことができる楽しい時間です!



Step 4 選ばれた本の 重複調査など (ツアー後)

参加者に選ばれた本が既に図書館にあるか? 参加者の中で同じ本を選んでいるか? などを図書館職員がチェックした後、書店に注文します。



Step 5 POP作成 (ツアー当日または後日)



ツアーで選んだ本の中から、おススメ本数冊のPOP(本の宣伝文)を作成します。文字を強調してアピールしたもの、絵が描かれたものなど様々なPOPがあります! 色鮮やかなPOPは本の魅力を引き立てる効果が抜群です。

Step 6 館内での展示 (ツアー後)

大学図書館2階Grove Loungeにて、POPと一緒に展示します。学生の視点で選ばれた本は、他の学生からも人気があり、展示直後から次々に貸し出されます。



Step 7 書店での展示 (ツアー後)

令和6年度は7月中旬から約1ヶ月間、6月のツアーで選ばれた本がPOPと共に紀伊國屋書店新宿本店のアカデミック・ラウンジで展示されました。学習院大学の学生がどのような本を選ぶのか? と来店客の興味を引いている模様でした。



参加者の感想

文学部・哲学科3年
S.D.さん ※学年は参加時

- Q. 選書ツアー当日はどのような本を選書しましたか?
A. 卒業論文関係(美術の本)を中心に選びました。
- Q. 選書ツアーに参加した感想は?
A. 想像していたよりも大きな金額の書籍を買え、選んでいるだけでとてもワクワクしました。普段から利用している書店でバーコードリーダーを持って歩き回る体験は新鮮でした。



「選書ツアー」以外にも 本を選ぶことができます!

学習院大学の学部生と大学院生の皆さんは、学習・研究に必要な資料が学習院の図書館になかった場合、図書館に資料の購入希望を出すことができます。対象資料は図書(雑誌やデータベース、映像・音楽資料等は対象外)と電子ブック(Maruzen eBook Library掲載の図書)です。

申込方法は図書と電子ブックで異なりますので、詳細は大学図書館Webサイトでご確認ください。読みたい本が図書館になかった時は、ぜひ活用してください!

※大学図書館の選書方針や基準に合わない場合は、お断りする場合もありますのでご了承ください。



大学図書館「Instagram」をフォローしてください！

令和6年4月、学習院大学図書館のInstagram公式アカウントを開設しました。図書館の日常や各種イベント、学生の皆さんに役立つ情報など、図書館の魅力をタイムリーに発信しています。今回特集した「選書ツアー」の募集、館内や書店における選書本の展示なども発信していますので、フォローや「いいね♡」をよろしくお願いします！

なお、InstagramへのコメントやDMには、原則として返信いたしません。ご連絡やご質問は、大学図書館WebサイトやOPACのお問い合わせフォームからお願いいたします。

大学図書館Instagramはこちらから



令和7年2月5日時点の画像です



文学部哲学科
京谷 啓徳 教授

私の専門はイタリア・ルネサンス美術ですが、近年は、もともと趣味だった日本近代芸能史や近代の音が記録されたSPレコードについても研究対象とするようになりました。それで、専門の本は大学の研究室、趣味の本は自宅の書斎に置くと決めていたのですが、専門に格上げ(?)された芸能関係の本も研究室の書架に並ぶようになりました(自宅の書斎がキャパを超えてしまったこともあり)。結果、研究室の書架は、古今東西ジャンルも入り混じった、混沌とした様相を呈しています。また研究室には書物とともに、3台の蓄音機と多くのSPレコードも保管しており、書架の一部はレコード棚と化しています。ルネサンス美術に関しては、500年以上も前の一次資料を自分の手元に置くことは難しいですが、近代の芸能であれば、当時の書籍や雑誌、パンフレットやチラシ等を比較的容易に入手できるのが嬉しいですね。



折々の関心の痕跡がパッチワークのようになった書架、ないしそのような書架の並ぶ研究室は、研究者の興味関心の変遷、おおげさに言うと研究人生そのものが展示されている場所・空間なのだと思います(日の目を見なかった研究上の淀み・澱のようなものも含めて)。



来ぶらり No.122 2025年4月14日

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
発行責任者：図書館長 山田澄生 編集委員：山脇治・橋本尚美
総合カウンター (内線 2397)：☎ 03-5992-1009(直通) レファレンスカウンター (内線 2396)：☎ 03-5992-9249(直通)

「来ぶらり」のバックナンバーは大学図書館Webサイトで公開しています。



ISSN 2186-6724